

本日の福音書の箇所は、ルカによる福音書の心臓部とも呼ばれる部分になります。この章は、「エルサレムへの旅」という枠組みの中で重要な位置を占めています。イエスの様旅はまさに「失われた人を捜して救うため」の十字架の道でした。

羊を百匹持っている人〉は雇われている羊飼いでなく「自分の羊」を飼う羊飼いです。イエス様はご自身を羊飼いにたとえています。1匹の羊がいなくなっているのを発見するのは通例夕方、羊を囲いの中に入れる時でした。この羊飼いは99匹を雇われている羊飼いに託して1匹を捜しに行くのです。たとえの焦点は99匹ではなく失われた1匹です。

失われた羊を発見した羊飼いは大いに喜びます。「自分の両肩に乗せて」羊を連れて戻ってきますが、私たちが弱り果てている時でも、神様は私たちに必要な助けと恵みを与えてくださるといふたとえなのです。

先のたとえと対をなすのが次の物語です。前者の主演は裕福な男で、後者は貧しい女性でした。一緒に喜ぶ人々も前者は男、後者は女です。この物語は、どのような人も神様は愛されており、豊かな者しか神様が愛さないわけではないと言っているのです。この福音書の読者はローマの人々ですが、ローマは当時、属州に多額の税金を課して自分たちは豊かな暮らしをしていました。自分たちの豊かさにしか関心がないローマの人々に対し、神様がこのような状態を喜んでおられるのではない、自分たちがいかに貧しい人々を苦しめ続けているかをよく知らねばならない。神様はもっとも貧しい人々に対してよい知らせを告げ知らそうとされているのだと、豊かな人々への警告を告げ知らせたのです。このことは今日の私たちにとっても重要な示唆を与えることでありましょう。